

編集後記

本誌の編集委員を担当して驚いたことは、他人の論文の考察をそっくり自分の考察に組み込んだ論文があったことと、和文による二重投稿問題である。すなわち、前者は他人の考察を最初から文献番号付きでそっくり自分の考察に組み込んだ論文があったことである。この時は希な疾患であったので文献検索をしていた時に悪質な引用に気付いたが、もし気付かなければそのまま採用された可能性が高かった。後者は同じ和文論文を他誌にも同時投稿していた事件であった。幸い他誌の編集委員を兼任している編集委員からの指摘により二重投稿が判明したが、いずれにしても投稿者のモラルが問題である。

モラルが問題と言えば、1998年7月28日文部省の学術審議会はクローン技術のヒトへの応用を全面的に禁止した。1996年に英国ロスリン研究所のイアン・ウィルムット博士による体細胞を使用したクローン羊「ドリー」が誕生し、さらに1998年に石川県の県畜産総合センターでクローン牛が誕生してから、クローン技術がヒトへ応用されることを心配する声が高まってきた。イアン・ウィルムット博士自身も、「生まれた子供がどう感じるかも考えなければならない。私のクローンが私を見て“年を取ったら自分もこうなるのか”と思ったら人生に夢がもてなくなるでしょう」とクローン技術のヒトへの応用には反対している。現在、イギリス、ドイツ、フランス、および日本などではヒトのクローン研究は禁止されているが、本誌でも文章のクローン化、すなわち悪質な文章引用や和文による二重投稿は御遠慮して頂きたい。

(安田秀喜)